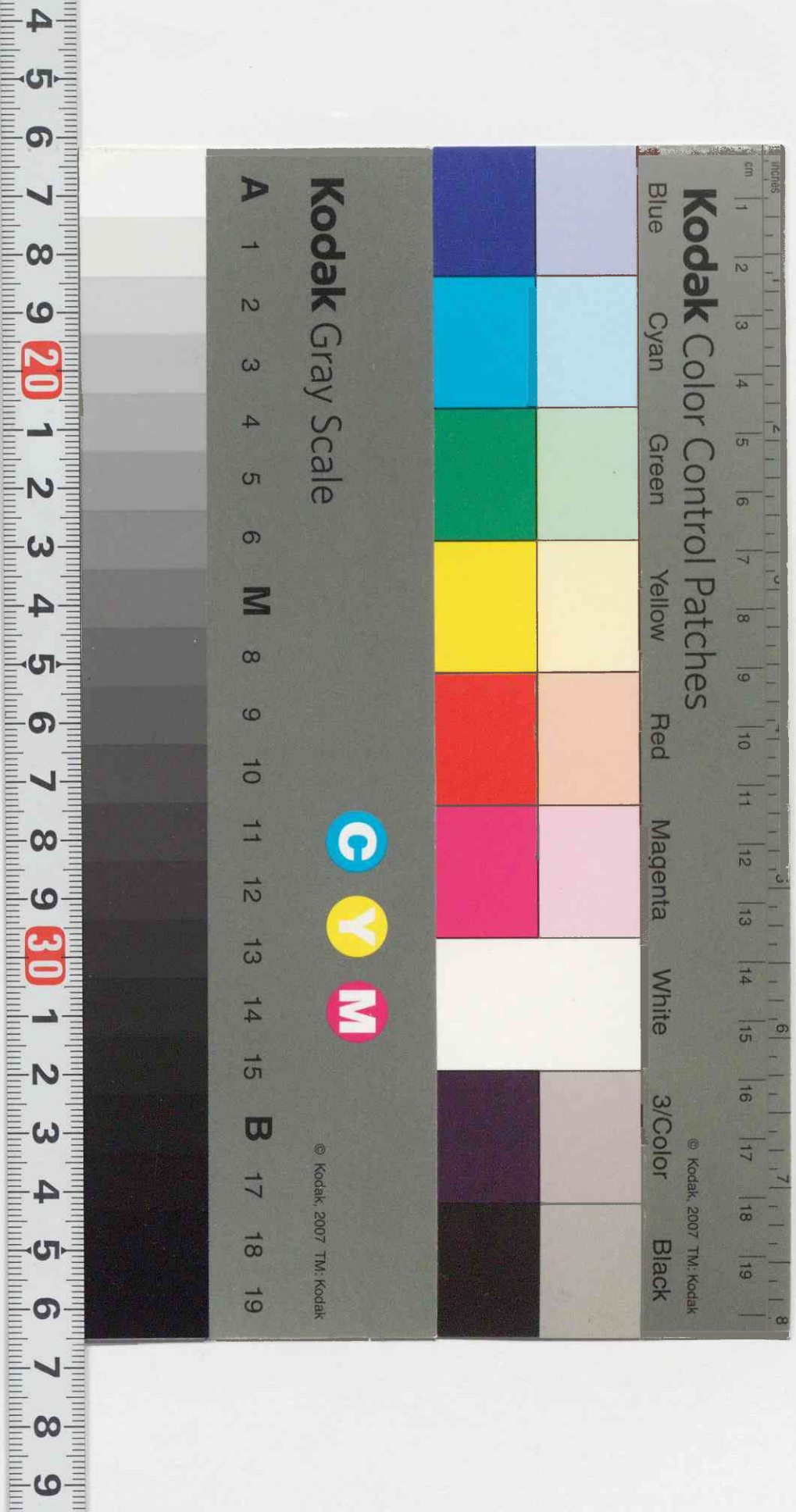




南總里見八犬傳第三輯卷之二

東都 曲亭主人編次

犬塚義遺託を諾く
第廿三回 網乾謾歌曲と賣る

いぬづのりつ。とむと。あつ。ちた。いぬづ。き。わ。を。諾。く。
犬塚信乃成孝ハ伯母夫犬塚墓六ガ家小移居一ヨリ嫌忌の中小日を
弥リ年を送レバ里人多ク親しくもわづらひ只彼百姓糠助の舊馴
染と伯母も許し信乃ガ故小疑ひもその性思直るればなり。現この老人ハ
信乃ガ為不言棄敵小るものあるねと思ふる。随偽らむ。よろ。不實思ふ
あるれば信乃ハその本訓の仁みちたを愛し。その口邊を過る日。左の
安否を伺ひ初ふ。か。ま。交。参。け。か。う。う。招。不。糠。助。ガ。女。房。ハ。去。歲。の。秋。カ。ち。る
る。病。著。る。け。け。小。寒。定。心。あるれば果ハ藥價續く。このよう

吾身も死罪に宥られ、死に追はせざりて日廻守のあへ慈悲心より、村
長小領に、小児金吉を返り下さきたり。又、鄙言の難有迷
惑已てを得む稚児を負ひ抱つ安房を追上總を過ぐ下
總より行徳まぐりて途の艱難に食熟後、親も子も餓勞れて
せんまゝ、役行者の惜せぬ鱗を漁り、冥罰はまほかくても
脱ぎ途小休む死恥を曝し、親子共侶身を投るをよめを
らめと思ひ決めて名もあぬ橋の欄干小足を踏み、跳没んとす。
折武家の飛脚とあひ人件の橋を渡り、かりく遠く抱れ禁め推引
居る懇は縁故を問ひ、八幡悔のふ恥を忍びて、二五十一と告げふ
る。その人、あつて憐れ、原來は素より悪人、あつてけり。こゝに
鎌倉殿足利成氏の御内、小禄卑職のあつても、聊慈善の志願

あり。その故八年今四十餘まで子ハ育ち、さしは年々
夫婦心をなほし、神仏を祈念し奉り、又、小稱ふべし、八人乃
艱苦を救ふと心誓ふ、久くありぬ、今ふは殊り、二子をめく
わす。親子ほく死んとせり人、さるべの浮世、然らばその子を日れ
はせよ。ともかくも、養ふとよ小懇、いづれ、その時のふさ息
絶く、くちやぬ舌中。説盡さばも察し、地獄で逢ひ、仏軟神軟と
多々更は一議、及ばず。そのい、小兼引、只感候を推拭へ、彼人
かき、これハ敷の、死脚、安房の里見へ赴き、かくさる。お
私小推児を推し、下り、定宿あり。家あり、小相譚。且、
その子を預け置、鎌倉へ立ち、妻の女、ゆきを告、日、ふと
迎へ。ふ、その子ハ焦悴、武藏より神奈川、小児五班

糠助が懺悔
物語窮客
推兒を抱く
身と投入と



の妙策あり。これを用ひて。致驗あり。既而親子とある人。此れ等。同小
字。三月。人。や。け。め。り。後。中。を。く。め。り。志。を。く。め。り。と。赴。れ。ぬ。と。喻。し。り。
路。費。ふ。せ。よ。と。て。懷。中。あ。る。方。令。二。顆。と。出。し。各。餉。の。料。は。軟。腰。は。纏。う。
割。龍。と。共。に。賜。ふ。辞。を。ふ。り。あ。く。受。納。め。重。く。の。恩。を。謝。し。り。
玄。吉。を。賺。あ。り。と。處。と。甘。み。を。抱。た。り。と。舊。來。の。入。立。度。を。つ。
つ。と。送。り。と。る。飲。く。も。悲。し。く。て。是。る。人。親。子。一。生。涯。の。別。あ。れ。ば。も。養。
親。の。名。を。も。は。回。り。と。も。名。生。り。と。も。あ。ふ。り。と。あ。く。恩。愛。の。重。荷。を。ふ。
あ。り。と。も。竭。ぬ。名。残。の。葛。飾。の。行。德。潰。し。り。便。船。し。り。江。戸。の。津。小。越。た。り。
聊。相。識。る。人。あ。ま。不。この。大。塚。は。流。を。来。く。農。家。に。奉。公。を。移。し。り。その。冬。和。
君。は。生。ま。れ。り。か。く。次。の。年。この。家。の。先。住。る。初。七。と。い。ふ。の。日。や。り。て。
後。家。の。入。夫。を。招。り。と。あ。る。人。小。媒。め。せ。れ。その。名。迹。を。續。け。り。一。拜。

孰。ハ。何。で。も。一。拜。年。中。未。進。を。債。ら。れ。り。水。飲。め。ぬ。瘦。百。姓。人。の。嗚。呼。乃。
白。物。と。敗。し。め。ら。し。て。も。腹。を。む。故。郷。で。驢。せ。り。禍。ハ。貧。の。盜。の。合。あ。れ。り。心。を。
切。く。食。ふ。も。只。正。直。を。宗。と。し。り。朝。あ。く。ふ。を。合。せ。小。角。さ。る。人。罪。障。を。
勸。解。さ。る。も。十。八。年。その。毎。月。の。會。日。ハ。臨。齋。で。も。箸。め。り。け。り。其。精。進。の。
年。夥。送。る。誰。め。玄。吉。ハ。恙。な。く。生。育。か。人。を。た。め。の。人。ふ。あ。れ。と。願。ふ。
の。く。去。歲。や。り。り。妻。も。告。さ。り。子。の。人。を。今。臨。終。は。口。走。り。和。
君。も。告。さ。り。人。庸。る。め。信。美。を。豫。め。と。い。は。り。か。く。い。は。り。風。を。追。ひ。
影。を。捕。り。り。果。敢。る。れ。り。子。の。人。を。さ。る。ふ。も。あ。り。と。鑑。倉。の。前。官。
領。家。持。氏。成。氏。を。ハ。番。係。の。主。筋。を。さ。り。や。され。バ。亦。成。氏。朝。臣。ハ。西。官。領。
山。内。顯。定。め。扇。谷。定。正。め。と。不。和。め。り。鎌。倉。の。お。ん。住。ひ。か。り。せ。め。り。と。
許。我。の。城。小。越。と。せ。玉。の。其。処。を。追。て。迫。り。り。千。葉。の。城。は。や。り。と。ま。れ。と。

兄のちちもまふ折をぬバ下總へ赴んく。その宿所を索ふ養父の姓名と
あまぐといふも證據とて分明ある環會さるゝあやうに。これらに
念とせむ。まづ湯敷を用ひ夜もまゝ看病せまほ。これと親類の
寄宿をあれバあふ小仕せぬのまゝ。され下とび諾う。辞ハ金石不改
り。あろやとて思ひまゝと応へる。あまぐ小勤王慰められけれハ糠
助ハ當をこゝ合へと拜むの。哀情智小塞りてや復りみるをかうり
けり。かくてまゝ黄昏小なるまふけハ信乃ハ行燈ノ火を点し再び湯劑を
勧めあづり別を告ぐ宿所小還り。その夜額藏ふの糠助が送言の
よを物かり。ま吉が瘧の。玉のるを告ふけハ額藏の驚嘆し。
こゝ必吾黨の人と疑ひる。この才が随はたる。今も其趣へ
赴んく。えまほくといへと密語申立別と詰朝と起る糠助と坊ん

「せぬ。その近鄰の莊客詰来る。糠助ハこの曉小方なり。うろろと告ふ
けハ信乃ハ殊さふ。これを悼みて。まづ墓六ハ説勧め。永樂錢七
百文貸與る。その夜道場へ棺を送りせ。日子歴る。その家へ告ふ
件の七百文を返し納させ。残る錢と最編ある田圃ハ彼道場へ寄進
する。糠助夫婦その代の香花の料をさうけり。このる莊官墓六ハ
計ひて。その鄰人小指揮とて。實ハ信乃が墓六ハ説勧めたるより。誰
のいふく。食知り。この人莊官とて。あふ慈善め。下を伸云。これ
らハ其の父母なり。そ代りまゝといはる。めハなるをけり。不題管領
家の退糧人小細軒左母二郎といふ杜伎ありけり。近江比ま。扇谷修理
大夫定正ハ仕く。扈後より。便佞利口のめある。下とびハ寵用せられ
人を殿と云ふ。かり。うて。傍輩小強訴せられ。忽地小その非義覺え

軀、追放せられけり。そは父母ハ往ふ世を逝し。いまだ妻子もあらず。遠
 縁のめをよめふ大塚の郷に流浪ひする糠助が舊宅を購得く形の
 目秀く鄙みハ稀ある美男あり。いまだ大師様とてんえて草書抄を
 加神遊藝ハ今様の艶曲細骨鼓一節切る。と習ひうらめたといふこ
 ろ。大塚番作より。後里ふ跡の師匠をけし。左母二郎ハ毎日
 ふ日子を集く生活と。又女の子ハ歌舞今様を誨る。浮き技と
 好む。の都も鄙も多る。いまだ述ふより。遊藝の弟子日こは聚あつ
 け。舞ハ程又是首の少女彼首の嬌婦と仇ある名え立あれど。
 龜條ハころれ時より。漫ふ好む技ある。左母二郎かる。といふ。と
 夫ハ執成ふより。渠を憤るめあ。といふ。も。墓六ハやうぬ態。と。遂ふ

細乾を追はせけり。かゝる年の終り。小城主大石兵衛尉ハ陣代敷上
 蛇太夫といふめ。あつ。り。次の年五月の比蛇太夫ハ長男敷上宮六
 父の職禄を賜ふ。新陣代ハなる。ふけ。ハその属役軍本五倍二率川
 巷ハホと共に夥の若黨奴隷をねく。彼此を巡檢し。その夜ハ莊官墓六
 許止宿し。けり。墓六ハ豫てより。饗膳の準備して。佞媚賄賂とみふ
 と。勸盃まで礼ふ過る。折しも庚申なり。けり。龜條ハ夫ハ勸えく。
 細乾左母二郎を招よ。せ。庚申守。小假托く。歌曲の遊樂を催さ。女兒
 自慢の癖ある。ハ濱路ハ殊更。花ハ。ち。なる。羅衣被せ。ころ。なく
 その席小侍とせ。或ハ。執らせ。又。筑紫琴を奏させ。左母二郎ハ例の
 艶曲を誨せ。と。と。自。成。を。え。ふ。り。濱路ハ。か。る。席小侍り。て。ん。せ。ぬ
 人々小馴。く。物をいひ。け。れ。贖細乾と臂を連ね。て。あ。が。拙。き。絃。の。あ。り

金貨賓客達ふ聴せん。信乃があらんとのをくして心裏恥しき限であれ
とも。親の争ふべくもあらず。困りて一曲を奏つる陣代殿上宮六ホハ
醉顔蕩けし燈燭に光をあてそくも愧む。眼と細くく濱路をめぐりて
声を太くききてその節奏と響きあひ。扇を短くとりて節を拍し。鼻下と
長くく。蛇の流るるをきき。長短細大我ど忘れし。驟然と笑ひし。
ち。真今宵の管待ハ美酒のいも。美を盡さず。膳部もいも。善と
盡さず。唯令弱の一曲の。玄の又玄。玄實僧都也。聴聞せし。墮落せん。
妙の又妙。妙音天女也。合奏せし。機を投人。吁有かこの音楽や。妙の
今の音楽や。と訛声合し。諺ふる人。濱路ハ慟く。且腹さ。し。其
妙の堪ぞ散動ふ。紛て滅る。如く退れけり。さ。亦左母二郎ハ管
領家の退糧人る。とも。宮六ホハ鎌倉へ在番せし。めな。され。は。は。

と。識るとあり。細乾ハその性浮薄之。から遊興の席を累し。嗚呼の
浪子る。とけし。虚辯と。く。媚を呈し。く。盃を勧ふ。趣あり。又。秀
句を吐れ。笑ひを催し。宮六ホハ。稱して。殿との。檀那と。唱へ。墓六と。大人と。
稱し。龜篠を。負方と。給事の奴婢を。柳様と。喚び。下男を。と。先生と。
いふ。稱呼。續。徳操る。是。輕薄兒の。習俗あり。さ。か。か。乃
席の。声色を。嗜む。老實者ハ。愚形。が。如し。彼。紂王。が。比。于。を。り。て。不
肖と。又。儼忽。が。混沌。を。不。具。と。思ひ。こと。同じ。か。且。信乃。の。夜。さ。
と。子。舎。ふ。り。燈。下。ハ。兵。書。を。繕。く。の。そ。の。席。ふ。へ。ね。も。墓六。も
亦。二。三。回。を。故。より。あ。り。あ。り。陣代。の。信乃。が。を。一。句。も。披。露。せ
さ。けり。か。く。鶏。鳴。曉。を。告。る。宿。小。稍。盃。盤。を。とり。納。め。墓六。ハ。宮六。ホ。ハ。
泰。し。と。敬。ひ。謝。し。く。更。ハ。早。飯。を。勧。む。宿。酒。い。ま。ど。醒。ざ。れ。ハ。各。々。と。食

艶曲を
催す墓
六權家と
官待を



ひろと宮六

八権八

あや左四郎

ひき六

龍さく



おとさく

おとさく

八犬傳三輔卷二

山月堂藏

いづれは彼此を巡るべく。三人齊一立出れ。八墓六の遠く。その後者ふ
うち難く。村盡ぬまで送りけり。是より先ふ龜條。八日待月待の折に
觸れて。細乾左母二郎を招けり。艶曲を聴く。招ふ左母二郎。八早晩。濱路を
着て。思ひを告ぐ。人目の國成。あつて。小言葉の露を結びかけ。淫らき
色を。んせ。式ハ。亦鳥の跡を。媒妁。めく。筆。又。おを。ぞ。い。せ。る。う。あ。る。を
書。う。け。ん。濱路。ハ。ふ。ふ。ふ。觸。れ。ど。い。と。や。う。罵。辱。め。後。ハ。細。乾。が。あ
毎。小。癖。く。再。び。面。を。對。へ。現。人。の。性。を。り。習。ひ。も。よ。う。さ。う。け。り。され。ば。この
少女。ハ。その。心。を。親。又。似。ど。行。ひ。よう。づ。ふ。貞。く。て。信。乃。ハ。親。の。口。づ。も。豫。て
許。せ。よう。あれ。ども。それ。を。い。ま。ご。婚。姻。を。う。結。ぶ。夫。あ。れ。ば。送。り。親。く
お。い。り。を。況。く。浮。き。風。流。士。ハ。名。を。立。ら。る。る。あ。ら。女子。の。恥。辱。この。う
あ。い。と。う。く。念。く。さ。と。う。の。人。を。引。入。る。母。親。と。心。つ。れ。あ。と。思。ひ。う。

さう。より。敷。上。宮。六。ホ。う。止。宿。せ。り。夜。二。親。が。う。り。あ。く。濱。路。を。給。仕。小。付
り。く。左。母。二。郎。共。侶。ハ。琴。よ。曲。子。と。晴。か。く。酒。宴。の。由。を。そ。え。さ。せ。る。
い。と。お。そ。く。あ。め。の。う。人。の。諫。を。用。ひ。る。親。の。氣。質。ハ。推。辞。く。て。あ。る。た
羞。へ。と。歎。け。り。稍。一。曲。を。奏。し。濱。路。ハ。か。の。う。く。あ。れ。ども。母。龜。條。が。あ。ら。ハ
異。な。り。龜。條。日。来。あ。ら。か。ず。件。の。細。乾。左。母。二。郎。ハ。鎌。倉。武。士。の。浪。人。と。う。あ
え。く。いと。愛。さ。れ。美。男。あり。渠。が。い。ふ。を。使。く。小。鎌。倉。ハ。あり。一。日。ハ。食。禄
五。百。貫。を。充。行。と。う。も。近。習。の。首。小。丸。と。ハ。敷。の。お。人。寵。大。く。形。は。出。頭
第一。あ。つ。て。り。く。傍。輩。あ。く。媚。て。黨。を。樹。頻。小。説。言。を。う。る。ふ。り。身。ハ
暇。を。賜。り。か。ども。原。是。敷。の。お。人。志。少。あ。く。を。かれ。ハ。近。れ。は。石。は。さ。る。人。の。所
内。意。あり。この。里。の。僑。居。ハ。要。時。が。程。ふ。あ。く。と。い。り。この。人。今。ハ。宴。に。あ。く。と。も
その。言。の。う。く。あ。く。遠。く。さ。う。く。歸。家。せん。管。領。家。の。出。頭。人。を。吾。女。誓。お。招。ん

る。その時、あひびく。今より情を被へる。後の栄利となる。とある。親の
心を子にあらう。鈍や濱路が只、管小信乃を良人とぞひらうてや。昏姻を結ぶ
し。あつる。暑やちと入つけ。あり。可憐な女児を可愛氣のる。野に一口
態進て。田蛭小喰入らう。が如く引放さ。とれ血。血を流さ。後。よ。痛ふ
る。人。此。由て彼を推す。細乾が濱路小意あり。とも。後の害。あ。む。
濱路が信乃。情を寓て。火。後。又。利を捨。男を取。
との。左母二郎ハ美男あり。も。迹。愛。遊藝。何。暗。音曲。妙。
これ。棒中。の。棒。の。信乃。同日。の。論。あ。大。年。吾。侪。を。
良人。が。あ。思。案。も。ね。ん。か。六。濱路。信乃。が。成。ひ。絶。も。困。め。
細乾。小。ま。の。あ。い。と。あ。ひ。く。世。の。嘲。も。里。人。が。憤。ア。も。ん。え。折。
觸。事。小。托。く。あ。く。細乾。を。招。れ。左母二郎ハ懲。ま。小。且。その。親。小

副馴。い。も。濱路。を。い。入。ま。ん。と。あ。ひ。く。の。色。え。と。要。緊。の。り。あ。
日。の。龜。條。小。招。る。ま。使。と。も。あ。ひ。く。の。あ。く。途。小。墓。六。は。逢。入。時。
兩。中。と。い。も。木。屨。を。脱。し。斗。米。の。為。あ。い。く。折。る。腰。の。低。れ。バ。莊
官。夫。婦。ハ。只。顧。ふ。その。伎。眉。ら。成。飲。び。貳。る。れ。め。め。ぞ。思。ひ。け。

第廿四

軍本媒一々莊官小説く
墓六偽りて神官は渾き

却。説。陣。代。殿。上。官。六。ハ。墓。六。ハ。莊。官。墓。六。ハ。女。兒。濱路。を。眷。憐。て。より。
恋。の。慾。火。禁。め。か。て。寤。て。も。寐。て。も。忘。れ。と。媒。約。も。か。か。と。あ。
氣。色。の。坐。小。頭。と。り。け。の。媚。と。勢。利。を。旨。と。する。そ。が。属。役。軍。本。五
倍。傷。入。る。れ。折。を。ん。官。六。ハ。い。か。う。人。名。ひ。あ。れ。バ。色。小。出。づ。色。小。
ま。人。も。あ。る。某。属。者。尊。公。の。氣。色。小。と。く。既。小。その。意。を。察。

再々來臨す。預り付ると先かこちへ玄園の板敷まゝ送り出さる。かの
 名の墓ふ等しく刃を平めて臂を張り。頭を擡定ふ千秋萬歳と送ふ
 祝。祝さる。田る男媒人ハ披く扇ハ夕日影土用近づく。俄暗長櫃昇
 後者ホハ吹入る。風式答め主の後方より引さる。墓六ハ見送果る。
 そが終裡面ハ入る。秘竊聞ある。電條ハそと紙門を推却る。彼種
 種の聘物を顯りて数る。うち微笑と呟め。この結納やとのハ墓六ハを
 抗音高し。入りや。人潰路と信乃ホハをさる。この品々大袂とく
 うち被めむ。や。ん。刃且く張番せよ。と土藏へ運び入る。長櫃の中ハ
 隠さん。あややくと焦燥ハ電條ハ忙しく。袂夥りて。被もれ。墓六袴
 の後を結袂し。袖巻揚。女兒ハ見せぬ。聘礼物ハ親の。靡く柳樽母ハ
 竊ふ。よろこぶ。布の和名ハひろえ。賜より。うほ重宝ハ輕の。脯。こま。ハ。さ。ける。

直る。特め。乳。張。れ。ハ。飾。附。の。白。髪。草。より。あ。は。素。子。なる。白。銀。入。
 ち。も。生。あ。り。二十枚。こ。ま。並。び。く。巻。衣。五。本。綾。や。あ。く。入。錦。衣。と。木。口。を。
 見る。解。く。隙。あり。白。木。の。臺。あ。く。も。か。と。さ。り。か。く。あ。く。置。れ。と。左。
 右。引。提。く。藏。の。戸。口。を。あ。り。入。る。が。あ。く。夫。婦。し。く。盜。む。が。心。配。ハ。
 その。度。毎。人。や。る。ま。ば。や。と。同。ハ。あ。く。と。い。ハ。鶴。鶴。久。ハ。歌。あ。く。と。が。
 腰。折。し。ん。疲。勞。足。辛。く。も。隠。藏。め。け。り。時。も。あ。く。夏。の。日。な。れ。ハ。奴。婢。ハ。
 彼。此。又。睡。臥。潰。路。ハ。納。戸。ハ。只。ひ。を。り。洗。衣。を。熨。斗。く。を。信。乃。ハ。菩。提。院。へ。
 詣。る。と。く。嚮。み。あ。く。の。ま。と。還。る。と。只。額。藏。の。い。ハ。あ。く。と。い。ハ。墓。六。ハ。
 彼。品。々。を。運。び。隠。し。く。後。ハ。見。せ。ぬ。客。房。の。次。の。回。ハ。單。衣。の。領。を。さ。る。と。
 星。を。捻。く。居。り。け。る。と。あ。く。の。夜。さ。り。あ。く。夫。婦。ハ。臥。房。ハ。入。り。臥。け。り。
 殿。上。宮。六。ハ。皆。縁。の。り。密。語。く。信。乃。を。亡。へ。死。計。策。を。商量。と。當。

妻せんといひつるの悔い。寔は口と禍の門の櫓ハ一年ふ十尋せ尋はる
ともひの延る陣代の性急成のふせん只速小信乃を亡ひ後やとて
しそよけき為術あんと眉をよき雲時頭を傾き六遠寺の鐘の声とも小
蛸ふり著く蚊の叫ひ其れ小四六七家裡の人ハ定り夜ハ九ツ
かろまけり且一と墓六八頭を舉ぐ莞尔と咲き龜篠のやと尋思あ
まや。こま妙計を生じたりといふは龜篠起直り。その妙計といふは
る。そと傾る耳試引よき。顧ふ小信乃ハ頗思慮あり。熟く渠を討ん
苦肉はあふさふ施し。抑前管領成氏朝臣ハ番作信乃が主
まぢるまハこれよりふ計あり。そても足利成氏朝臣ハ持氏のおん
子よりむ。結城落城の後討た多ひ。春王安王の弟あるが成氏
尚永壽王と稱せ。宝徳四年の春京都將軍の恩免を蒙る。て

鎌倉ふより六代の管領あり。その重臣根管領扇谷持朝。山
内顯房。めと睦。かき君臣相攻る。と年あり。享徳四年六月十二日。
成氏竟小鎌倉の御所を放火せられ。ふ下總國ふ起死猿嶋
郡許我の熊浦といふ処。小屋形。成修理い。ふ。移る。ふ。許我の御
所とぞ唱。かく又文明四年。成氏朝臣山内顯定。め。許我の城を
攻落。さ。同國千葉。没落。千葉陸奥守康胤を頼て。せ。よ。
今茲。文明。西管領と。おん和睦の。整ひて。許我。歸城。志多ひ。世の風声。ふ
隠れ。ふ。今。こ。ふ。の。ふ。より。て。信乃。を。云。云。と。欺。死。く。神宮河。落。し
か。ん。おん。才。ハ。おん。各。の。間。は。竊。小。左。母。二。郎。が。宿。所。へ。い。ゆ。さ。く。箇。様。こ。小
あ。り。ふ。人。この。謀。合。期。せ。彼。村。雨。の。宝。刀。を。畧。る。べ。い。これ。ハ。長。苦。肉。の。一。計。
を。施。し。難。い。と。い。ふ。も。如此。せ。られ。い。ふ。く。も。別。に。彼。奴。を。賺。し。得。る。件。の。宝

里人ホは媒妁せられ夫婦はせん。いひ号し言葉ハ今さう反故はほちるべし。
 莊官とのちあつる。あんを愛し。信乃がくるべ。皆小せん家を嗣せん。
 信乃ハ妻の姪あつ。箇様この怨ある。番他が子。あまふ。かゝる。よち。
 の。あ。彼奴を遠離。あんを皆小と豫。よ。い。この。
 空一。如此。計。信乃ハ他郷へ赴くべ。就。渠。稚死時。不。
 皆引出。取。せ。莊官。秘藏の一口。世。類。名劍。を。復。
 さんと。明。地。は。求め。返。も。く。あ。か。より。て。云。計。あ。
 かん。亦。云。小。相。計。ひ。莊官。の。佩。料。の。信。乃。が。件。の。一。刀。を。指。替。て。
 とい。ん。や。勿。論。あ。この。一。刀。も。長。短。を。豫。量。して。その。用。意。さ。あ。は。
 鞆。あ。い。う。さ。る。ハ。あ。事。あ。と。れ。ハ。あ。よ。な。れ。幸。ひ。あ。ん。が。ぬ。も。は。ら。ま。
 や。と。虚。言。実。事。を。雜。へ。辞。巧。ふ。あ。ら。わ。と。は。左。母。二。郎。は。つ。く。と。知。り。愧。

いろ面おもて色いろよく。額のどふもを當あて沈しん吟ぎんしたる。頭くびを擡あがり四下しげを見みかへ人ひとがまゝく
 多おほくは。かゝる密事ひそごとをいつめく。逃にげく。相譚さうだんするん。さうゆゑに。さかま
 某娘あなさぬ。小懸想せうけんせざるふあぢき。さとも。鮎あひの貝かいの片思かみおもひて。彼君あきハ。強あきら
 顔かほ。そ成情せいけい由よしあま。と宣のたまふ。ハ。ちん目鏡めがねの曇くもまるたのうん。さるを。某それ化骨あき
 折し。首尾しゆびよく。大刀たうたうを搦にぎ替かするとも。娘むすめさぬ。あは。も。氣きづく。ハ。家尊けぞ父ちち
 母ははも。せん。さ。か。う。ん。この謀まハ。い。ふ。と。期ごを推おせ。亀かめ條じょうは。と。お。笑わらひ。の。あ
 鈍にち。や。粹ま。あ。似よげ。あ。信あの乃のが。さ。さ。さ。と。あ。う。ん。さ。濱路はまぢハ。誰たれ。う。憚いる。べき。
 渠あが。靡あく。と。靡あう。ぬ。ハ。と。ぐ。く。あ。ん。の。の。ろ。ろ。ふ。あ。う。ん。二親ふたおやの。知しる。さ。う。け。ふ。ハ。付つ
 ら。ど。親おやの。許ゆるさ。ぬ。夫そハ。連つて。逃にげ亡なる。め。の。世よハ。多おほかり。況いは親おやが。聲こゑか。い。定さだて
 の。ち。む。ち。よ。睦むつ。ハ。兄あにも。睦むつ。ハ。さ。ぬ。も。揖うかを。執とる。夫その。才さいと。不才ふさいハ。あり。こ。ま。ハ。是これ。江湖えこの
 いろれ。ど。ち。の。う。人。然しか。い。の。と。さ。う。ハ。が。目めふ。さ。う。情じけ由よしあ。う。ん。と。ん。ゆ。う。あ。ん。角かくと

許我小赴死由來を述先祖の忠死を訴その宝刀を敵にば召かさん
る疑ひあり和殿許我は留るべき遠くは濱路をかり遣る
又留らるるまゝく腎養子の披露して職禄を譲るべしとれハ大石
殿も村長めくやと措ん必諸司の上ふとせし陣代ゆせられん歎られも
和殿が徳よりて忽地面をおろしとバ龜條傷より吾侪夫婦は
男兒ありと懸むハその為日ろくと思ひぬふと思ひぬくとも
察し六月の終る様あるまいと堪へて侍らんが許我とく遠見境ふ
善ハ急げと俗ものいふと怒り起るうと誠一がふ勧めたり信乃ハ軍木
五倍二が殿上宮六がふ小媒めく濱路は聘礼物を贈り本日事の起を
額藏が願願くくその代告するふ今亦伯母と伯母夫が年来竊に
念成被る村雨の名刀を許我の御所へ進ませんと只管ふ勧るを原來

「はやく代わし遣り濱路を宮六は嫁とせし底心なり」と言下し曉りく
茫然と笑ふ不肖の某かまふふあん慈愛を被る」とと歎く「そいへ村
雨の宝刀のうハ両公達のおん像見めくハ折もあふ許我殿へ獻れと親も
いひぬれ」といふこの二がの仰なくともやれとくあん指揮お任せんと
折る云々と宣ひつてを幸ひある現跡ゆも寸善尺魔といふこの少く
明日發足仕さんと早言葉ふあふ夫婦ハ大とせむとくあん心
だのせむハ吾侪もあふ歎びるれども主といふくハふかく小行装中整ひ
かす。暫を繰り日子がよハ明后日と定めぬ後者も背めく額藏
二ハ一人遣る。あふ愛ととせし難せし信乃ハ泰一と思を謝しと鮎
へや退けハ額藏ハ庭の草木ハ水を伏せけくをり折るをよけと招
よせ縁願ふまわら。今墓ハ龜條ふはつれく。日が思ふるふ又言ふ

せこく耳語ハ額藏のくうと頭定ハ推量あるのみ。おん心を下送へ旅
とせ。後方ハ彼婚姻を執整人なるべし。只痛ハ濱路のふ當今の
少女ハその心操有かたれま。おん心を慕ふなり。おん心。そ一朝夕ハ
捨る仇結ひたる妹妹の縁後の怨ハいつあふんといふ。信乃ハ嘆息し
人木石ハあふさば思ふはあふねども。女子ハまづ水性のふ。おん心
を。親ハ早かり。某ハふとどたう。親のころハ後なるべし。大丈夫
たふんハ恋情とく。一女子ハ生涯を愆えんや。再びはるる。おん心
只うち捨ておんのと。ハ額藏さふと。おん心。おん心。おん心。おん心
掃く。信乃ハ裡面をへふ。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心
と。信乃ハ起行の用意ハ。濱路ハ。おん心。おん心。おん心。おん心
二田山木綿の単衣涙を包む袖形ハ。編ハ。おん心。おん心。おん心。おん心

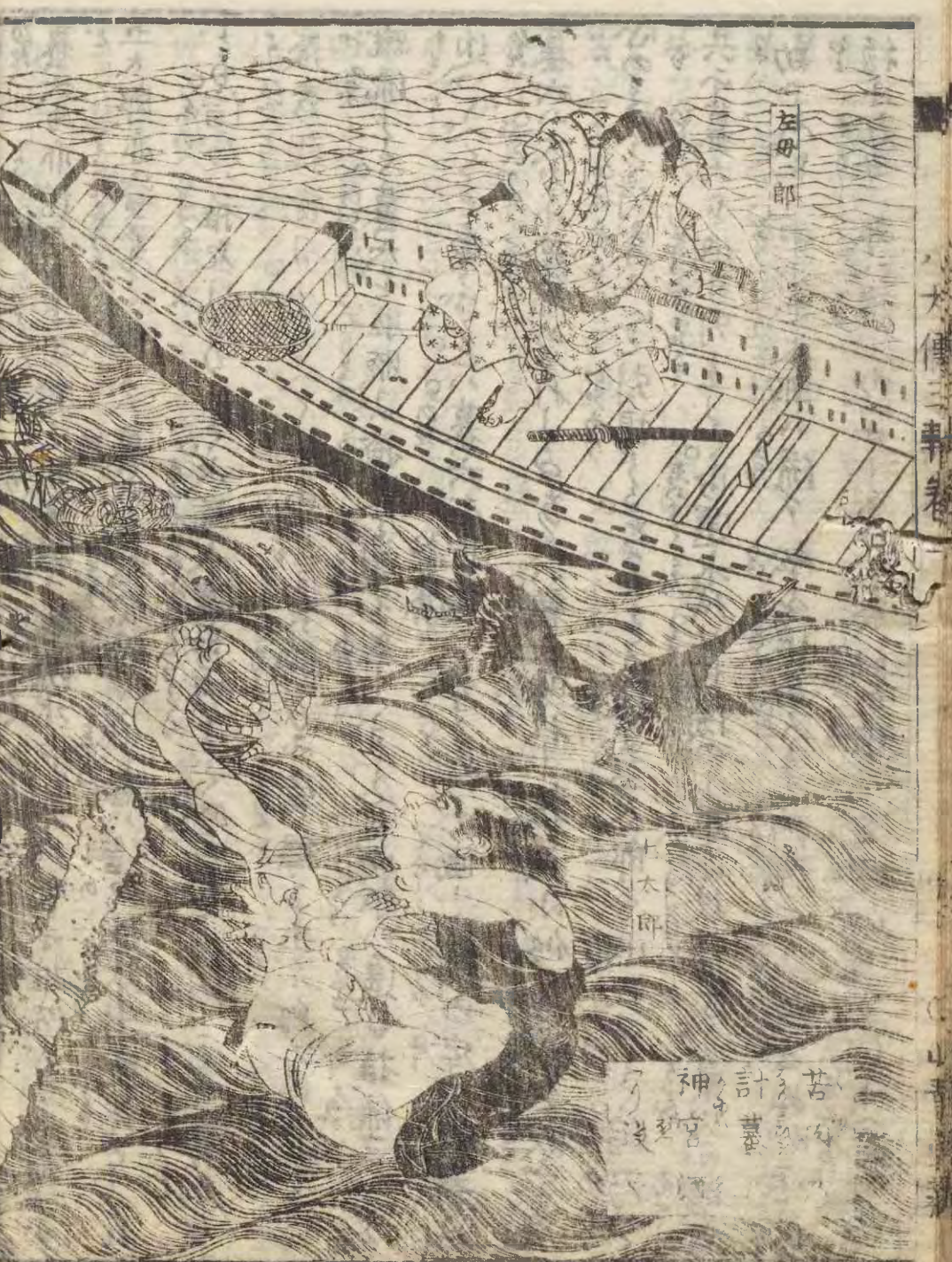
何時も。曳送さる。糸の端結ハ縁ハ。おん心。おん心。おん心。おん心
一個刺縫て又一個。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心
日ハ信乃ハ行装ハ。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心
假初ハ。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心
愛敬と厄難。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心
糸結。又瀧野川の辨才天へ。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心
朝ハ。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心
祈願を。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心
仰ハ。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心
れハ。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心
乃ハ。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心。おん心

身を淨め。雲時神前。小黙。下向。赴。程。途。の。中。て。田。中。中。て。
さ。ひ。み。か。く。墓。六。が。細。乾。左。母。二。郎。を。伴。て。老。僕。背。ぬ。は。俵。細。を。被。肩。せ。さ。る。
ふ。成。さ。う。く。さ。る。ふ。あ。ひ。り。墓。六。一。反。あ。ま。う。あ。か。さ。う。呼。り。て。信。乃。よ。和。殿。ハ
心。願。あ。ま。六。瀬。野。川。詣。ま。つ。と。さ。り。果。く。う。う。く。遭。ゆ。れ。と。い。ふ。間。信。乃。ハ
遠。く。差。を。脱。く。進。近。つ。れ。さ。夕。さ。え。く。漁。獵。小。牧。何。処。へ。と。赴。れ。り。ハ
と。同。ハ。墓。六。う。ち。笑。く。され。ば。と。三。ハ。和。殿。が。首。途。に。餞。別。酒。の。肴。小。と。く。
彼。此。を。回。せ。り。と。魚。屋。う。ち。折。り。う。り。と。い。り。故。小。飯。頃。は。細。を。か。り。と。三。
の。肴。を。獲。ん。と。さ。ひ。く。忙。て。宿。野。成。り。折。細。乾。生。は。訪。ま。り。誘。引。ま。て。
さ。る。と。和。殿。所。要。ハ。果。く。ん。い。さ。め。ろ。共。中。と。先。小。ま。バ。左。母。二。郎。也。會。釈。く。
只。官。勤。め。い。さ。る。ひ。り。便。是。墓。六。が。豫。く。巧。く。奸。計。さ。さ。る。墓。六。の。龜。
條。小。勤。さ。さ。る。信。乃。を。瀬。野。川。中。に。遣。り。月。く。と。墓。六。を。俵。細。を。背。ぬ。は。は。

被。肩。せ。り。宿。野。を。出。ん。と。い。ふ。程。は。暗。号。小。と。さ。る。左。母。二。郎。ハ。門。邊。に。伴。は。
さ。る。と。田。中。中。信。乃。小。あ。か。く。さ。る。の。く。む。小。謀。さ。れ。信。乃。疑。ふ。と。い。ふ。と。
根。つ。く。ハ。巧。く。信。乃。ハ。斯。忙。と。い。れ。り。さ。る。漁。獵。は。あ。さ。さ。る。底。意。ハ。さ。る。
伯。母。夫。の。さ。る。小。細。を。か。り。と。田。別。酒。の。設。し。さ。る。伴。る。れ。ハ。推。辞。小。し。
形。困。り。か。く。小。打。つ。れ。さ。る。神。宮。河。原。へ。赴。れ。り。墓。六。ハ。豫。り。相。識。る。
家。さ。る。船。を。借。り。一。人。の。揖。取。土。太。郎。と。い。ふ。の。成。雇。く。船。小。乗。ら。ん。と。さ。る。程。小。
忘。ま。り。と。小。膳。を。拍。と。遠。く。背。ぬ。を。近。つ。り。喬。小。宿。野。を。出。ん。と。い。ふ。口。管。は。
さ。る。早。さ。る。偏。提。割。公。龍。を。忘。れ。り。故。ハ。ま。一。ま。は。ま。さ。る。と。彼。兵。糧。を。
取。り。さ。る。急。げ。急。げ。と。焦。燥。ば。り。け。さ。る。と。応。え。む。家。路。を。投。て。走。去。る。と。
勤。了。る。さ。る。中。に。信。乃。ハ。左。母。二。郎。共。侶。は。件。の。船。小。乗。移。れ。ハ。
約。小。左。母。二。郎。ハ。謀。の。ハ。せ。り。と。さ。る。墓。六。ハ。標。幟。と。い。ふ。小。脱。更。て。腰。裏。と。

身を淨め。雲時神前小黙禱。左母二郎ハ茶を煮んと。稀小あり
此火め向ひく生柴折。火を吹く。信乃墓六ハ壯年より殺生を好む。ち
ち。細い。小。随ひ。江。鮎。る。の。獲。め。板。子。の。人。小。引。揚。れ。く。左。は
反。右。小。反。方。と。ふ。隙。あ。い。と。奥。わ。り。さ。る。信。乃。日。ハ。さ。さ。く。十。七。日。の。月。い。ま。さ
升。ら。し。船。中。且。く。暗。さ。し。墓。六。ハ。豫。き。より。巧。作。る。正。ま。さ。は。奥。小。乗。り。お。も
の。ち。く。只。音。ひ。う。ち。ち。を。細。の。ろ。共。小。舟。を。跳。ら。せ。く。水。中。へ。陥。り。り。衆。皆
吐。嗟。と。驚。死。驗。が。く。板。子。を。投。入。さ。る。さ。る。水。面。暗。さ。る。其。所。と。も。は。る。さ。る。
信。乃。ハ。有。數。小。伯。母。夫。の。溺。る。人。を。忍。び。ど。も。不。衣。を。脱。捨。つ。波。を。披
け。く。船。入。る。小。揖。取。の。土。太。郎。も。續。く。火。と。飛。入。り。墓。六。ハ。少。壯。より。水。煉。め。長
く。且。く。水。底。を。潜。り。右。小。か。め。の。細。の。緒。を。解。流。信。乃。が。跳。り。入。る。小。及。び。て
忽。地。は。浮。揚。り。く。溺。る。如。く。ゆ。を。信。乃。ハ。これ。を。救。人。と。く。墓。六。が。小。取。ま。ハ

墓六も亦信乃が脱を楚と捉。板を深水へ引く。只音小推沈人とする。信乃
土太郎亦資多。陽。墓六を救ふ。如く。底意。信乃を水中せし。し。れ
い。信。乃。ハ。推。れ。れ。し。り。く。水。馬。水。煉。歩。渡。り。心。り。む。と。い。ふ。と。さ。く。精。力。を
長。秀。親。衛。は。少。か。る。べ。く。も。あ。い。ま。御。小。資。縁。る。土。太。郎。を。一。反。あ。さ。う
蹴。流。し。く。墓。六。を。脱。腕。は。搔。込。と。頭。を。拳。う。見。う。る。小。船。の。遙。は。推。流。れ。る。ま
近。づ。く。と。も。あ。い。ま。墓。六。を。抱。揚。り。左。の。の。働。く。向。の。岸。小。酒。着。小
墓六ハ大力小抱縮め。れ。し。の。あ。れ。ハ。鶴。は。啄。れ。雜。魚。小。似。り。水。を。飲。み。用
心。の。し。く。阿。容。と。と。引。揚。り。と。く。さ。る。信。乃。土。太。郎。も。溺。死。著。と。信。乃。と
共。小。墓。六。を。倒。小。引。き。し。く。少。選。水。吐。せ。傷。の。小。屋。小。技。入。り。く。墓。六。ハ。暖。め
勸。了。ん。そ。中。小。土。太。郎。ハ。流。り。船。を。追。留。へ。し。く。阿。原。を。下。ま。ま。ぬ。め。ア。ー
信。乃。左。母。二。郎。ハ。謀。し。め。せ。し。く。墓。六。ハ。船。の。偏。り。を。幸。ひ。み。く。河。下。へ。越。え。り



九六
山崎闇斎

大傳
事
卷

取^と腰^{こし}帶^{おび}するもの事倉卒^{とさうそく}に^い夜中^{やちゆう}の^うあき^{あき}に^あ拔^は放^{はな}て^も
 足^{あし}さ^さり^{けり}。鳴^な手^て惜^{おし}む^む。親^{おや}も子^こも年^{とし}来^き獲^と一^{ひと}室^{むろ}刀^{やいば}あ^あれ^れた^た只^{ただ}寸^{すん}隙^{げき}の由^{よし}あ^あ

ようて他^{ほか}も落^おる^るハ時^{とき}運^{うん}る^る。

作者^{そくしや}云^い神宮^{しんぐう}村^{むら}ハ豊嶋^{とよしま}郡^{ぐん}今^{いま}の王子^{おうじ}村^{むら}より北^{きた}の^う十七^{しち}八^{はち}町^{まち}あり^り。河^かあり^り。
 神宮^{しんぐう}河^かといふ蓋^{かき}その地^ちより名^なづ^づけるもの。水^{みづ}上^{うへ}八^{はち}戸^こ田^でより落^おる^る。十^{じゅう}住^{ぢゆう}に至^{いた}り^り。墨^{すみ}
 田^で河^かを登^{のぼ}る^る。海^{うみ}へ入^いる^る。神宮^{しんぐう}の西^{にし}の^う豊嶋^{とよしま}村^{むら}の河^かをひ^ひふ豊嶋^{とよしま}信盛^{しんせい}の館^{くわん}
 の迹^{あと}あり^り。今^{いま}八^{はち}鋤^そと^と。幾^{いく}ははれり。當^{あた}長^{ちやう}祿^{ろく}長^{ちやう}亨^{けい}の地^ち圖^ずを考^{かう}る^る。この河^かの南^{みなみ}岸^き
 あり^り。尾^お久^く豊嶋^{とよしま}梶^{かぢ}原^{はら}堀^{ほり}内^{うち}十^{じゅう}條^{じょう}。縮^{ちぢ}附^づ。志^し村^{むら}亦^{また}の教^{けう}利^りあり^り。神宮^{しんぐう}
 村^{むら}ハ按^おはる^る。梶^{かぢ}原^{はら}を詠^よる^る。今^{いま}神宮^{しんぐう}と書^かハ古^こ実^{じつ}あり^り。かれハ神宮^{しんぐう}の
 舊^{ふる}名^なハ梶^{かぢ}原^{はら}堀^{ほり}内^{うち}村^{むら}あり^り。ハ蓋^{かき}の辨^わる^る。此^この半^{はん}頁^{げつ}ハ楮^ち餘^よあり^り。

里見八犬傳第三輯卷之二 終

